

KURE KOSEN



National Institute of Technology (KOSEN), Kure College

呉高专だより



改修された図書館棟
※関連記事 24 頁

呉高专と保護者をつなぐ情報紙



目次

●校長あいさつ	2
夢の実現に向けて羽ばたけ	
●役職員あいさつ	3
歩む道	
(後援会会長 福本 智志)	
巨星墜つとも志は絶えず	
(副校長 黒木 太司)	
ポストコロナに向けて	4
(教務主事 木原 滋哉)	
将来への志のために	
(学生主事 西坂 強)	
感謝	
(寮務主事 松野 一成)	
専攻科長退任にあたって	
(専攻科長 中迫 正一)	
●各室・各センターより	5
コロナ禍でも学生相談室の活用を	
(学生相談室長 佐賀野 健)	
COVID-19 とグローバル	
(国際交流室 神田 佑亮)	
やってみて、感じてみて、	
考えてみるをモットーとした主体性を育む授業	
(地域実践教育センター長 林 和彦)	
図書館棟にできた新しい展示空間	
(広報室長 間瀬 実郎)	
●卒業生・修了生へ	
機械工学科	
機械工学科 第 5 学年 卒業おめでとうございます	6
< 担任 > 岩本 英久	
電気情報工学科	
ご卒業おめでとうございます	8
< 担任 > 井上 浩孝	
環境都市工学科	
卒業おめでとうございます!	10
< 担任 > 黒川 岳司	
建築学科	
個性を社会に役立てて下さい	12
< 担任 > 下倉 玲子	
専攻科	
修了おめでとうございます	14
< 専攻科長補 > 木村 善一郎	
●進路速報 (2021 年 1 月末現在)	16
●2020 年度の呉高专日誌から	18
教育・研究	
インキュベーションワーク	
クラブ活動	
グローバル	
イベント等	
●部活動の成果、受賞実績	23
●「学びを見せる図書館棟」竣工	24



夢の実現に向けて羽ばたけ

校長 篠崎 賢二

卒業生、修了生のみなさん、卒業・修了、おめでとうございます。

本科卒業生は5年間、修了生は本科と併せて7年間、青春の貴重な時間を呉高専で過ごした事になります。充実した学生生活を過ごせましたか？

入学した頃の事を思い出して見て下さい。皆さんは、同学年の1%に満たない人たちしか進まない高専をわざわざ選んで入学されました。本校のキャッチフレーズは「Realize Your Dream」でしたね。皆さんそれぞれに夢、希望、目標があったはずです。例えばロボットを作りたい、ゲームのプログラムを作りたい、災害のない社会に貢献したい、カッコいい建物を作りたいなど。高専でその夢の実現に向かって助走してきたと思います。ただ、皆さん方の在学期間を振り返れば、身近で大変な事がありました。これにより、新たな夢、目標を持った人も多いのではないのでしょうか。

例を挙げると、2018年7月には西日本豪雨災害により、広島県を含む14府県で甚大な被害があり、呉市は一時孤立し、本校学生、教職員は大変な思いをしました。そして、昨年2月初旬からの新型コロナウイルスの感染拡大は、1年経った今でもまだ、猛威を振るい、終息の目処が立っていません。1月中旬の時点で、我が国の感染者数は、30万人を越え、世界では9,000万人を越えるという驚異的な数になっています。その他、熊本や北海道で起こった地震、数々の台風、豪雨被害が毎年のようにあり、自然災害の怖さと国土の脆弱さを思い知らされました。このような状況の中で、防災の重要性、遠隔授業のすなわちICT教育の重要性を認識したのではないのでしょうか。

高専での勉強その他はどうでしたか？皆さんは、恵まれた設備と環境の中で、4年制大学あるいは大学院修士課程と同程度あるいはそれ以上の専門教育を受けてきました。中でも、大学ではできない授業として、インキュベーションワークにより、学年、学科の違いを越えたグループで課題を見つけそれを解決して行くプロセスを学んだはず。その成果が、プロコン、プレコン、デザコン、ロボコンなど数々のコンテストに活かされ、優秀な成績を収めました。また、実験・実習や卒業研究、特別研究を通して、ものを作る面白さや研究することの意義、楽しさも味わったと思います。学生会が中心となった、コロナ禍での高専祭の開催で、感染防止対策を考えながら、自分たちであれだけの催しを企画・運営・管理して感染者を一人も出さず実行できたことも自信につながったのではないのでしょうか。

約30%の学生は、親元を離れ寮生活を送りましたが、青春時代に飲食をともにして暮らした仲間達との友情は、かけがえのないものになったと思います。また、海外留学を経験した人たちは、特に国際的な視点にたって物事を見られるようになったと思います。

これからは、呉高専で受けた教育、研究、クラブ活動、様々な行事、寮生活、海外留学などの経験を社会で活かし、また、大学・大学院でさらに発展させ、それぞれの夢の実現に向けて行くのが、皆さん達の課題です。

さて、天然資源がない日本において、国力を維持するには、「モノ」を作り、それを海外に輸出するしかありません。現在、我が国では製造業がGDPおよび就労人口の約20%を占めていますが、今後、少子高齢化が進み、労働者人口が減ると、生産力が低下します。そのため、少ない労働力で効率的に生産力、品質を上げるには、IoTやAIの活用、さらにはロボットを駆使した革新的なもののづくり技術が必要になります。このようなITやロボットの活用は、製造業だけではなく、医療、福祉、交通、物流、建設その他あらゆる分野で必要となり、技術者に望まれる役割は、より高度になってきます。一方、国民の生命、財産を脅かす自然災害への対処には、防災技術を駆使した国土の強靱化が不可欠です。地球規模の温暖化対策のため、日本は昨年10月、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。これには、今後の日本のエネルギーミックスの転換が必要となります。

皆さんは、このような、大きな社会構造を変える転換期の入り口に立っています。これから夢の実現に向けて羽ばたいていくことになります。先は長いですが、技術者がなすべき仕事を十分考えて、頑張ってください。

最後に、私の経験から、これから働くにせよ、進学するにせよ、大筋間違いないように進むには、以下のようなことを頭の片隅に置いておいてもらえば幸いです。

「いつも前向きに、楽しく、面白くと思いながら、コツコツと仕事をしておれば、世の中には必ずそれを見てくれている人たちがいる。その人々が、助けになってくれる。」ということ。そして、物事に取り組む時には、常に「なぜ、これをやるのだろうか？」「何のために、やるのだろうか？」「これは、何だろうか？」ということを自問自答すること。すなわち、自分の考え、行動を常に客観的に見る癖をつけ、物事を合理的に考えることが大事です。皆さんは、本校で十分なトレーニングを受けました。呉高専卒業生としての自信と誇りをもって、これから先の人生を歩んで行って下さい。

役職員あいさつ



歩む道

後援会会長 福本 智志

本科卒業生、専攻科修了生の皆さんご卒業・ご修了おめでとうございます。

私も後援会活動を5年間送らせてもらい、皆さんと共に卒業することになりました。これまで学生の皆さん、教職員の方々また他の後援会役員の皆さんのサポートやご協力により、充実した活動を送ることができました。改めて感謝いたします。

さて、この5年間を振り返ってみると、色々な出来事がありましたが、なかでも西日本を中心とした大雨水害や昨年から新型コロナウイルス影響による休校やリモート授業など入学当初には想像できない事態が発生し、学生の皆さんも生活が一変したのではないのでしょうか。

皆さんは「相田みつを」さんをご存じでしょうか？この人の詩の中で、『長い人生にはなあ どんなに避けようとしても どうしても通らなければならぬ道 というものがあるんだな そんなときはその道をだまって歩くことだな 愚痴や弱音は吐かないでな 黙って歩くんだよ ただ黙って 涙なんか見せちゃダメだぜ そしてなあその時なんだよ 人間としてのいのちの根がふかくなるのは』という「道」の詩があります。この詩のようにこの先、様々な場面で困難な事や弱音を吐くような時があると思いますが、自分の進むべき方向を見失うことなく、自分を信じ、また周りの力を借りながらも進んでほしいと思います。

この呉高専で学んだことを誇りとして頑張りたいと思います。

引用：相田みつを「道」



巨星墜つとも志は絶えず

副校長 黒木 太司

ここ数年で私の生き方に強烈な影響を与えた二人の恩師が黄泉の国に召されました。お一人は超高速光通信の三要素であるレーザ発振器、ダイオード受光器、光ファイバを発明され、電気電子関連学会では世界で最高峰に位置する米国IEEEからエジソンメダルを受賞された西澤潤一先生、もうお一人は超ブロードバンドアンテナを発明され、IEEEマイルストーンを授与された虫明康人先生です。インターネットが普及し、WiFiによる高速データ伝送が当たり前になった今、お二人の先見性は衆目の一致するところでしょう。

私が東北大通研入所を志望した動機は師の志に感銘を受けたが故ですが、駆け出しのころは上司の運転手やお茶くみ、はては便所掃除や不登校学生への家庭訪問など、意に反した仕事をしばしば命じられました。普通なら即挫折するところでしょうが、家貧しゅうして里子に出された経験がある私は、奉公の精神で研究とはかけ離れた仕事を黙々とこなしたものです。そのうち分相応な仕事を与えられるようになり、最終的には国内学会の諸委員長やIEEE日本支部委員長の要職に指名して頂きました。ここではたとえ自覚したことは、「意に添わぬ小さな仕事でも確実に実施して行くことで組織や社会との信頼関係が構築されるのだ」と。

コロナ禍、皆さんには日々の検温をお願いしていますが、これには二つの意味があると考えています。

一つは当然ながら体調管理を通じて防病行動をとって頂くためですが、もう一つは検温申請という小さなタスクを実行することで周囲との信頼を高めてもらうことと理解しています。

皆さんにおかれましては、将来船出する社会との信頼関係は不可避であることを念頭に、日々そのための鍛錬をしてもらいたい。時は変われど、気質は変われど、我々は社会の絆に支えられているのですから。

役職員あいさつ



ポストコロナに向けて

教務主事 木原 滋哉

今年度は、新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。教員にとってもオンライン授業ははじめてのことでした。数名の先生にオンライン授業を試行していただき、教員の間でスキルを共有した上で、5月から座学についてはオンライン授業を開始しました。呉高専としても教員としても試行錯誤の連続でした。

学生にとってもオンライン授業ははじめてのことでしたが、教員以上にすぐに慣れて、スキルが向上しました。しかし、スマホで受講している学生、自宅のネット環境が整っていない学生など課題も明らかになりました。

今では、オンライン授業は当たり前の日常になりました。ICT教育が一気に浸透したわけです。この機会に、呉高専でもICT教育をさらに進めることが課題となりました。

今年の経験を踏まえて、ICT教育を充実させるその先に、呉高専の未来が開けるだろうと確信した1年でした。



将来への志のために

学生主事 西坂 強

将来社会へ旅立つ際、学生達が成人として相手を尊重し協力し競い合うことのできる考えを持つ人材となるよう育てるため、厳しさの中で優しさを加味できる人材育成の指導を行っています。

具体的な指導項目は①挨拶のできる学生②身なりの整った学生③ルール・マナーを遵守できる学生④クラブ活動において積極性、協調性を実践できる学生の4項目を基本としています。

学生主事室は学生会と話し合いながら、より良い学校になる為に学生達と向き合っています。挨拶と身なりについては、教職員からの率先垂範をお願いして小さな花が数多く咲きつつあります。また、スマホ等による迷惑行為やルール・マナーの守れない事例がまだ毎年ありますが、学生自身の意識や行動が良い生活リズムに自ら向かっています。

クラブ活動では、チーム目標、グループ目標、そして個人目標を各自が設定し全国で常に活躍できる内容にステップアップしながら、学生間、コーチ、顧問、OB、OGそして保護者と連携した体制を通し、目標のためのリーダーシップやメンバーシップを養い、人として成長してくれることを期待しています。ただ、昨年はコロナ禍の状況における学生生活であったため、高専体育大会や各種コンテストが中止・縮小となり、一生懸命に取り組んだ学生達の成果を出す機会が得られず、大変悲しい思いをさせたと感じています。

この逆境状況の時こそ、前を向き人と協調して明るく楽しく行動することを学習したと思います。卒業する学生諸君は、社会人として世間に迎えられる第一歩となり、自身の規律と行動が重要となります。母校で体験した挨拶や身なりに加え自らが確りとした責任行動が出来るよう、新しい扉を開けて歩んで行ってほしいと願っています。



感謝

寮務主事 松野 一成

寮務主事としての2年目が終わりを迎えました。

この1年は新型コロナウイルスに振り回され続けました。その最大の対策は、50名ほどの寮生に一時的な通学をお願いし、寮内での感染拡大防止のために全室を個室で運用したことです。その一時通学生の協力のおかげで、何とか無事に寮運営ができました。感謝申し上げますとともに、未だに個室での運営が解消できていないこと、大変申し訳なく思っております。特に最終学年の一時通学生には、寮生として卒業させてあげることができなかったこと、深くお詫び申し上げます。また、寮での生活を続けている寮生にも不自由な生活を強いていること、心苦しく思いますが、これまでの協力に感謝申し上げるとともに、ウイルスの収束までの協力をお願いいたします。

今年のようなことが今後続かないことを切に願いますが、将来、何が起るかわかりません。今年の経験を糧とし、何事に対しても冷静に対応できる人間に成長していただくこと祈念しております。



専攻科長退任にあたって

専攻科長 中迫 正一

平成29年4月に専攻科長に就任し、3月末日で任期（2期4年）を終えることとなりました。これまでお力添えをいただいた多くの皆様に心からお礼を申し上げます。

本校専攻科は、平成28年度にプロジェクトデザイン工学専攻に改組されました。就任初年度は、新カリキュラムを修得した1期生が無事修了し、安堵したことが思い出されます。2年目からは、特例による学位取得が適用され、小論文試験を受けることなく、学士（工学）の学位を取得できるようになりました。3～4年目には、「修了生アンケート」や「学校を良くする懇談会」にて、在校生・修了生から要望のあったカリキュラムの一部改訂に取り組んでまいりました。

在任中は、平成30年7月豪雨、現在も続いております新型コロナウイルス感染症対策など、これまでにない困難な時期ではありましたが、微力ながら新しい専攻科を円滑に軌道に乗せることができたものと感じています。

終わりに、専攻科のさらなる発展を期待し、退任のご挨拶とさせていただきます。

各室・各センターより



コロナ禍でも 学生相談室の活用を

学生相談室長
佐賀野 健

今年度は新型コロナの影響により、これまで経験したことのない学生生活となったことと思います。私も長い呉高专での教員生活で、このようなことは初めてです。オンラインでの授業や会議、ソーシャルディスタンス、新しい生活様式など、私たち教員も試行錯誤しながらの日々であったので、学生の皆さんも同じように、これまでとは違った問題にも直面していたのではないかと思います。コロナに対する考え方も、人それぞれのように思います。凄く過敏に注意する人もいれば、あまり気にしていないような人まで。だけど、なかなか自分の思いをクラスの仲間には伝えられなかったり、どうしていいかわからなかったり等で、心がモヤモヤしたまま学生生活を送っていた人も多いのではと思っています。そんなときには、ぜひ学生相談室を利用してください。

今年度からはオンラインでのカウンセリングもスタートしていますので、わざわざ来室することなく、ネットに繋がるところでのカウンセリングも可能になっています。まだしばらく「withコロナ」の生活は続くようです。コロナ禍でも学生相談室スタッフは皆さんをお待ちしています。



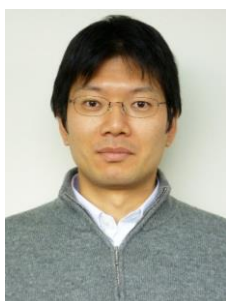
COVID-19と グローバル

国際交流室 神田 佑亮

2020年度は世界がCOVID-19に苛まれた一年でした。そして、呉高专の国際交流活動も大きな影響を受けました。今年度海外に行く計画を持っていた人、これから計画を立てようとしていた人、先の見えない状況で大変ストレスフルに感じていることと思います。

一方で、身近になったこともいくつかありました。オンラインの仕組みが浸透し、特に学外で展開されるフォーラムやセミナー、プログラムに格段に参加しやすくなったと思います。Face to Faceのプログラムに比べて、リアリティに欠けるところは確かにあると思いますが、チャンスの量は増えたのは間違いないでしょう。

こうした中で、国際交流室でも学生のグローバルに対するスキルとマインドを高めていくため、この状況下でも様々なプログラムを学生の皆さんと一緒に創っていきたいと思います。「英語ができる」ではなく、「グローバルな視野で見識が持てる」ことを目標とする人物像として、そのための一歩の後押しと、次のステップへのフォローをこれまで以上に強化して対応していきます。今がよいチャンスです。



やってみて、感じてみて、 考えてみるをモットーと した主体性を育む授業

地域実践教育センター長
林 和彦

「やってみる」授業として、全学年全学科一斉PBL授業の「インキュベーションワーク」を実施しています。この授業では、自分の興味関心のあることからまずはやってみて、それをプロジェクトにすることで主体性とは何かを考える体験をします。

「感じてみる」授業として、1年生に「プロジェクトデザイン入門」を実施しています。この授業では、子供のときに遊んだり流行ったりしたものを他人とコラボして一つの新しい遊びを創作したり創作物を制作したりすることで、自分の好き・嫌い、向き・不向き、得意・不得意を感じる体験をします。

「考えてみる」授業として、2年生に「俯瞰学」を実施しています。この授業では、寸劇を体験することで、相手の立場になって相手の気持ちや考えを理解し自分と他人との関係性を俯瞰することでエンパシーについて考えます。

これらの授業を通して、学生達は自分の動機と向き合い主体性を育んでいきます。



図書館棟にできた 新しい展示空間

広報室長 間瀬 実郎

令和2年9月に新図書館棟がリニューアルオープンしました。これに伴い従来のショールームも一新されました。

場所は図書館棟一階玄関付近で「ショースペース」と呼んでいます。

ここには、学生が受賞した賞状やトロフィーを常設展示するとともに、動画による学生の活動を紹介しています。

これまでに上映した動画は、「各クラブ活動の紹介」、「新図書館棟の3DCG動画」、「専攻科生がデザインした未来の乗り物」などです。

いずれの動画も本校オリジナル作品で、すべて学生自らが制作した動画です。

旧来のショールームに代わる新しい情報発信手法として本校学生や来訪者の方にアピールすることを期待しています。

機械工学科



機械工学科 第5学年 卒業おめでとうございます

機械工学科5年担任 岩本 英久

御卒業おめでとうございます。謹んでお祝い申し上げます。

私は、4年次から担任を担当しました。クラス担任を担当する際には、必ず最初に目標を設定しています。それは「全員が第一志望の進路に進むこと」です。その目標を達成するために、4年次ではインターンシップ、5年次では進路指導に力を入れました。保護者との3者面談は、例年よりも1か月早く実施しました。

さて、33名の進路についてご報告します。名称掲載順序はあいうえお順です。

進学において、編入学先は岡山大学、九州大学、長岡技術科学大学、広島大学です。本校専攻科進学は8名で、編入とあわせて12名が自分の専門性にさらなる磨きをかけます。第1志望への合格率は67%でした。就職においては21名で、その進路先は大阪シーリング印刷、オートリブ、花王、カネカ、川崎重工業、キャノン、コスモ石油、寿電気工業、神鋼環境ソリューション、ディスコ、西日本旅客鉄道、パナソニック（アプライアンス社2名、コネクティッドソリューションズ社）、日立造船、富士ゼロックス東京、本田技研工業、マツダ(2名)、三菱重工業、三菱重工冷熱です。ほとんどが超一流の大企業で、第1志望への内定率は78%でした。2年前に私が担当したクラスと比較すると、第1志望への進路割合は総合で91%から73%に低下してしまいました。

コロナ禍の採用面接はオンライン形式でしたので、学生にとっては不慣れな面接だったと思います。パソコンを前にして、うまく自己表現できなかった人もいたでしょう。企業側は画面越しの面談のみで内定を出しにくかったのではないかと思います。進学では、就職環境の変化により進学先が狭き門になったのかもしれませんが。このような状況変化に対応できるように、私がもう少し工夫して指導すべきではなかったのかと反省しております。ただ、コロナ禍の前に実施した4年次のインターンシップと、コロナ禍におけるオンライン授業などへの順応により、学生たちは、企業や社会人との信頼関係を築く術とコロナに負けないタフさを身に付けることができたと思います。

卒業後はコロナの脅威が消えても、人との接触やコミュニケーション方法は変わったままかもしれません。それでも社会は経済活動を継続し、産業活動は維持されます。仕事や業務で大切なことの1つに「信頼関係」があります。信頼関係を構築するにはコミュニケーションが必要不可欠です。コロナによって変わる社会の中でもその信頼関係を築くことは続けないといけません。

君たちの人生の中で、わずか2年間でしたが、私は君たちと一緒に過ごせたことをうれしく思っています。君たちには、呉高専と一緒に学んで一緒に卒業した仲間たちがいます。一度、深まった絆と信頼関係は決して揺らぎません。どうか、一緒に学んできた仲間たちを大切にしてください。これから困難が予想される未来であっても、君たちは、したたかに人生を歩んでほしいと思います。私は君たちの未来を信じています。

5年間を振り返って-呉高専日誌より-

2018年12月13日（木）

研修旅行 大学生との交流プレゼン M科3班

機械工学科3年 大塚 圭一郎、善岡 優斗

研修旅行の一環で呉高専の特徴や日本の文化をプレゼンしました。質問された時は受け応えに少し戸惑ってしまいましたが、それでもしっかりと伝えることが出来たと思います。

また中央大学の学生からの紹介プレゼンもあり、文化のことを事細かく説明してくださいました。プレゼンの仕方も上手く英語もとても上手だなと思いました。

中央大学は国内でランクの高い国立大学であると聞いており、またプレゼンに合わせて歓声を上げるなどノリのいい場面もあり、日本では味わえない雰囲気も楽しめました。



2019年2月19日（火）

第22回ロボットコンテスト（機械工学科3年）

技術センター 大東 由喜夫



2月19日（火）、総合実習製作発表会に引き続き第22回ロボットコンテストを行いました。機械工学科3年生37名が、総合実習期間中に1人1台ずつロボットを製作してきた成果を競い合うコンテストです。

今回は玉入れロボット大会を行いました。縦90cm横60cmの競技場内で、6個のピンポン球を高さの違う3カ所のカップに入れて得点を競います。競技時間は2分間で、トーナメント方式で行いました。

ロボットをスタート時に20cm×20cmの枠内に設置するためにアームを折り曲げたり、ロボットを斜めにするなど苦労していました。ピンポン球の取り込みでは、掴む、すくう、アームに張り付けるといった様々なアイデアのロボットがありました。

接戦となった時に操作を間違えて、カップに入れていたピンポン玉を落とすといったハプニングもあり大変盛り上がりしました。

2019年6月11日（火）

機械工学科4年のみんなで機械科棟周辺の清掃

機械工学科4年担任 岩本 英久

環境整備週間ということで、機械工学科第4学年のみんなで機械工学科棟の周辺を掃除しました。

前日に機械工学分野の先生方が草刈り機で除草しています。

学生たちは熊手ほうきでその草を集めたり、道路に散らかった草は竹ぼうきで集めました。

蚊や虫に悩まされながらも、30袋以上のごみ袋に草を押し込み、きれいに片づけました。

最後に記念写真をとって、解散です。

4限まであった授業後に参加してくれて、ありがとうございました。みんなのおかげできれいになりました。

お疲れさまでした。



電気情報工学科



ご卒業おめでとうございます

電気情報工学科5年担任 井上 浩孝

電気情報工学科5年生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。4年次から2年間、みなさんの担任をして、就職や進学をサポートをしてきました。昨年初めから新型コロナウイルス感染拡大の影響で、緊急事態宣言が全国一斉に発令され、前期は始業式から1週間の対面授業の後、3週間の臨時休講を挟んで5月からオンライン授業となり、就職試験もオンラインでの面接に切り替わるなど、いままで体験したことのないことが続きました。そのような状況で、みなさんが希望していた就職先・進学先への内定・進学を決めてくれ、安堵しました。

初めてのオンライン授業は各科目の課題が多かったり、画面を見続けることに疲れたりと大変だったことと思いますが、この経験を今後のオンラインでの研修やテレワーク、大学の講義の受講や学会発表などでいかしていただければと思います。

このように社会でオンラインでの双方向での会議や授業が可能となった背景には、情報通信技術の発展があります。1990年代にインターネットが普及しはじめ、現在ではみんなが一人一台のノートパソコンやスマホを使って双方向での授業を受けることができるようになりました。今後も、5Gなどの通信技術の向上に伴う高速大容量データ通信やAIの技術革新などで情報通信技術もますます発展していくものと思われます。電気情報工学科で学んだ知識をもとに、それぞれの舞台で新たな技術に対する学びの継続をお願いします。

人生初のオンラインでの授業やホームルームを通して、担任として知識や情報を伝えることはできても、対面ではないためにみなさんの顔が見えず、本当に伝わっているかがわからず、ひっそりとした教員室のパソコンの画面に向かって一人で語り続けることはとてもつらいものでしたが、9月から段階的に対面授業が再開し、11月には高専生活最後の高専祭も無事に開催することができ、みんなでシフトを組んだ模擬店も盛況でしたね。

最後になりましたが、今後も新型コロナウイルスの変異種などの登場で、マスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保ち、多人数での会食は控え、可能であればテレワークでの在宅勤務をするなどの状況が続きます。これからも今まで体験したことのないような状況におかれることもあるかもしれませんが、呉高専で5年間学び、苦楽を共にして友情を深めたクラスメートとの絆を餞に。いつかまたみんなとマスクなしで会えるのを楽しみにしています。

5年間を振り返って-呉高専日誌より-

2016年1月11日（水）

電気情報工学科1年 LHR「先輩の話を聴く」

電気情報工学科1年担任 平松 直哉

本年度もあと1ヶ月程度となりました。電気情報工学科1年生は4月頃の初々しさはすっかりなくなり、皆、思い思いの呉高専生活を送っているように思います。1月11日のLHRの時間を利用して、電気情報工学科5年の先輩方に、これまでの学校生活や進学・就職活動などの体験談を話して頂きました。

1年生の皆さんにとって、「進路」を考えることはまだ先の話ですが、先輩の話を聴くことを通して、4年後の自分の姿を想像し、将来に対しての目標を持ってほしいと思います。



- ・インターネットで最新の情報を収集する、4年生は忙しいので勉強は早めに始める、普段の勉強も大切、研究室に訪問させて頂いてやる気をあげる（進学について）

- ・セミナーなどに積極的に参加する、エントリーシートは具体的に書く、面接は受け答えが大事（就職について）など、具体的でとても役に立つ有意義な話をして頂きました。時間はあっという間に過ぎてしまいます。皆さんが5年生になったとき、今回の先輩のように話ができるといいですね。最後になりましたが、研究等でお忙しい中、お話に来て頂いた、松本さん、矢賀さん、本当にありがとうございました。

2018年12月13日（木）

台湾研修旅行(2日目) 台湾海洋大学交流

電気情報工学科3年 藤井 蒼太



研修旅行2日目に台湾海洋大学の学生との交流を行いました。午前中は海洋大学でどのような研究をしているのかを見学し、午後は台北の街を海洋大学の学生とともに散策しました。私たちは中正紀念堂で班ごとに分かれ散策を始めました。食べ歩きを計画していたのですが、大学で昼食を頂いたので台北市街の有名な場所を回ることになりました。中正紀念堂では衛兵交代式を見ることが出来ました。

次に地下鉄に乗って公園に行きました。そこはもともとワインの保管場所だったようで建物が残っており、アンティークな感じがしました。

その後、士林夜市に行き小籠包を頂いたのですが、何故か私の小籠包だけ冷たく、皆が「熱いけどおいしい」と言っているのを聞き、悲しみを覚えました。

夜市を回り終え、そこで大学生と別れました。大学生の方はとても気さくで、皆いろいろな質問をしましたがそれぞれにきちんと答えてくださり台北散策を楽しむことが出来ました。

2020年1月9日（木）

電気情報工学科4年生、電子情報通信学会春の全国大会で研究成果発表決定！

先端電磁波システム研究室

昨年9月から研究室に配属された電気情報工学科4年岩本孝太・岩城昂琉両君が総合大会(於広島大学、3月17～20日)で研究成果を発表することになりました。

研究内容は、土中で育成する農作物を電磁波を用いて非接触で検知するシステムにおいて、岩本君は検知方法を、岩城君はそのための農地土壌の高周波誘電特性を解明したものです。

連日放課後の5時間と土・日曜日をフルに活用し、先輩達からのマンツーマンでの指導も受けながら、実にこの4ヶ月で総研究時間400時間を超える努力の結果と言えます。本科4年生がこのような、延べ9000名を超える参加者が集う国内最大規模かつハイレベルな学会で発表するのは、昨年の当研究室坂本君に次ぎ6人目となります。発表まであと2か月、研究成果をさらに精査し、発表に臨むことを期待しています。



環境都市工学科



卒業おめでとうございます！

環境都市工学科5年担任 黒川 岳司

環境都市工学科第5学年の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

こうして無事卒業を迎えられるのは、皆さん一人ひとりの頑張り、仲間や先生方の支え、そして何よりご父兄が温かく見守ってくださったおかげですね。ご父兄の皆様は心より感謝いたします。（学生の皆さんも普段なかなか伝えられない感謝を気持ちを是非この機会に。）など書きながら、C5全員が揃って卒業できることを信じていたのですよね？この原稿を書いているのは学年末試験や卒論提出の前なので、最後の最後で何かあるのではないかとちょっとドキドキしています。卒業が決まってもきっと3月31日まで落ち着かないと思います。皆さんの担任を務めた2年間でそんな癖がついてしまいました。3月31日の夜には本当の安堵と何とも言えない寂しさを感じるのかなと予想しています。

皆さんとは、1年生の時は学生主事補、2、3年生の時は教育主任として、授業や部活動以外のあまり関わりたくない場面で接することが多く、担任になる前から縁（腐れ縁？）を感じるクラスで、4年生の担任が決まった時はこれは運命だと感じました。4年生の始業式の日に、ある学生から「私たちの担任は嫌でしょう？」と聞かれ、もちろん「嫌じゃないよ。」と答えましたが、これは社交辞令ではなく本心でした。それは、1年生からよく知っている（ちょっと要注意人物が多い）クラスの学生たちのぐっと伸びる姿に一番近いところで立ち会えると思ったからです。

実際、要注意人物たちも彼らを受け入れてくれる優しい周りのクラスメイトもみんなそれぞれ確かな成長を遂げてくれました。4年時には、多くが技術士第一次試験に合格し、その勢いそのままに進路では、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態の中でもたくましく乗り切り、全員が希望の就職先、進学先に見事決まりました。まさに「やればできる！」です。コロナ禍で、最後の年にクラスみんなで楽しめる学校行事のいくつかが中止や縮小になったことは悲しいですが、高専祭でうどんをみんなで作りまくったことや、最後の球技大会で総合2位になったことは、クラスとしての成長の証であり、担任としても最高の思い出になりました。

卒業後の進路先で、責任の重さにたじろぐかもしれません。物事がうまく進まずいら立つかもしれません。環境の変化にストレスを感じるかもしれません。でも大丈夫です。皆さんは呉高専の環境都市学科21期（土木工学科から数えると48期、学校全体では53期）卒業生です。5年または6年（留学生は3年ですね）をこのクラスの仲間なかで立派に乗り越えてきたのですから。自信を持って行きましょう！でも、辛くなったらすぐに連絡ください。皆さんには共に過ごした仲間と53期分（C科だけでも48期分）の先輩と呉高専教職員という力強い味方が付いています。

卒業で学生と教員という関係は終わりますが、今度は大人と大人の関係が始まります。母校との関係は一生です。リクレーターなどで来校されるのが今からとても楽しみです。研究などで一緒に仕事をする人がいるかもしれないし、もしかすると教員として呉高専に戻ってくる人もいないかもしれませんね。皆さんのさらなる成長を想像するだけでうれしくなってきました。

皆さんの担任として過ごした2年間は振り返ってみればとても楽しかったです。改めて、ありがとう！そして、今後ともよろしくお願いします。

5年間を振り返って-呉高専日誌より-

2018年12月15日（土）

3年台湾研修旅行

環境都市工学科3年 萩原 由渉

12月12日から15日まで2、3年生は研修旅行で台湾を訪れました。学年によりスケジュールに差があるため、3年の研修内容について紹介します。

一日目、台湾に到着した日は台湾で初の昼食を食べ、台湾料理と日本食の違いに戸惑いを感じ、残りの滞在が少し不安になりましたが後から考えると余計な心配でした。その後、故宮博物館を訪れ、台湾の歴史についてガイドさんの話を聞き学びました。その後晩ご飯を食べてホテルへと向かい、ホテルの豪華さに驚きました。

二日目、台湾の大学生との交流の為国立海洋大学を訪れ、台湾の名所などへ案内してもらいました。特に印象に残ったのは台湾の夜市散策でした。三日目は『千と千尋の神隠し』のモデルとなったお茶屋のある九份と十份を訪れ、本当に千と千尋の世界に来てしまったかのような感覚でした。最終日は台湾で最も高い建物である台北101を訪れました。本研修に参加できとても充実した4日間を過ごすことができました。



2019年10月19日（火）

3Dマップによる防災教育で地理情報システム学会賞受賞

環境都市工学科4年 松本 凌太郎



インキュベーションワークで取り組んできた活動「GISとレーザー加工機で作る3Dマップによる防災授業の小中学校への展開」が、2019年度 教育初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰において、地理情報システム学会賞【GISの効果的な活用の観点】を受賞しました。

10月19日（土）に第28回地理情報システム学会研究発表大会（徳島大学）で行われた表彰式に参加し、事例発表を行ってきました。

また、この内容について、12月5日（木）に広島大学で行われるイベント「GIS Day in 中国 2019」でも学生報告として口頭発表する予定です。

2019年10月30日（火）

現場見学『安芸バイパス瀬野東IC橋PC上部工事』

環境都市工学科4年 日浦 脩太

10月30日(水)に、安芸バイパス瀬野東IC橋PC上部工事の現場見学に行きました。

現場ではPC2径間連結コンポ橋という種類の橋を作っており、バスで現場に向かう際に橋の種類やその作り方について説明していただきました。現場に着いてからは現在行われている橋の仮設工についての説明を受けました。これまで自分たちが授業などで知った知識が実際に現場で使われており、そこから今自分たちが学校で習っていることは将来役に立つんだということあらためて実感し、勉強に対する意欲がわきました。また、PCコンクリートを作る際のプレストレスの導入の体験もさせていただき、コンクリートの強度が増していることを確認することができました。またいろいろな重機もあり、リアルな現場の雰囲気を感じることができました。このような実際の働いている現場を見ることで、自分たちの将来について考えるいい機会にもなりました。ありがとうございました。



建築学科



個性を社会に役立てて下さい

建築学科5年担任 下倉 玲子

建築学科5年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。長い高専生活をやりとげ、やっと新たな門出を迎えることとなったみなさんに、心からお祝いを申し上げます。

みなさんとは本科4年・5年と2年間、担任としてお付き合いさせて頂きました。私は教師なので、みなさんが規則違反をすると指導をするわけですが、私が学生だった頃を思い出すと色々先生から注意されたなあと思います。今、NetflixでThe Crownというイギリス女王エリザベス2世にスポットを当てたドラマを見ていますが、若いエリザベスが王位の職を全うしようとする姿を見て、人にはそれぞれ役があってそれを演じ切るのが人生なのかなとったりしています。イギリス王室を描いたThe Crownの壮大なスケールとは違いますが、呉高専時代のみなさんは学生の役、私は教師の役です。学生指導は教師の役割の一つですが、最も大切なのは、みなさんがより良い将来に向かっていけるように授業や進路指導によってサポートすることです。

時間をかけて一人一人のことを知ってくると、それぞれの悪い面というよりは良い面が浮き上がってきます。みなさん、とっても個性豊かで素晴らしい人材です。ぜひこれからはそれを社会に役立てるということを考えて下さい。その時に、世界共通言語である英語の能力はとっても大事です。

私が英語をしゃべれるようになろうと本格的に思ったのは、実は高専で在外研究にイギリスに派遣して頂いた30代半ばで大変遅いのですが、みなさんにはもっと早いうちに目覚めてほしいなあと思います。なぜ、英語能力が必要か、それは入ってくる情報が格段に違うからです。そして何より楽しいです。私はアメリカ・ニューヨークを舞台としたガールズ・ウーマン系のテレビドラマが好きで、それを繰り返しみることで日常会話は練習しましたが、それぞれあった学習方法があると思います。TOEICの点数よりも（もちろんいい点ってほしいですが勉強するのが億劫になってしまっは困ります）、実践できることが大切です。

楽しい勉強方法を見つけましょう。個性を役立たせる場所もぐっと広がります。がんばって下さい！

5年間を振り返って-呉高専日誌より-

2017年7月30日（日）

学校見学会で中学生にハンドメイドを体験してもらいました

建築学科2年 道迫 明日香

インキュベーションワークで「ハンドメイドを広めよう」のテーマに取り組んでいる学生で7月30日の学校見学会に「プラ板でキーホルダーをつくろう」のブースを出しました。そこで、見学に来てくれた中学生のみなさんに、ハンドメイドの楽しさを知ってもらうために、ハンドメイドのキーホルダー作りを体験してもらいました。



私達は普段、小学生や親子を対象としたイベントを行っていて、中学生には教える機会があまり無かったのでとても新鮮で良い経験となりました。今回のイベントでは一見簡単そうに見えるプラ板のキーホルダーを中学生用にレジンを使ってアレンジして作ってもらいました。また、レジンが固まるまでに少し時間があつたので中学生と楽しくお話をしたり、保護者の方の質問に答えたりすることができて、たくさんの人とコミュニケーションを取れたので良かったです。今回の見学会では、穴の大きさが合わずにキーホルダーの金具が入りにくいなどのトラブルもありましたが、参加したみなさんにハンドメイドを楽しんでもらうことができました。今回の見学会では、良かったところや、改善が必要なのところも知ることが出来たので次回のイベントに活かしていこうと思います。これからもより良いイベント開催を目指し頑張りたいです。

2019年11月29日（金）

インポッシブル・アーキテクチャーの見学

建築学科4年 重松 大輝



11月29日（金）に呉高専建築学科篠部研究室のゼミ生4名で、広島市現代美術館で現在企画展示されている「インポッシブル・アーキテクチャー」を見学して来ました。

実際に建てられることは無く、幻となってしまった沢山の建築の設計案に触れ、建築デザインの引き出しを増やす良いきっかけになりました。

個人的に特に印象に残ったのはセドリック・プライスの「ファンパレス」という作品で、平面図・立面図・断面図など教科書に載ってない部分も詳しく見る事が出来たのが良かったです。

この展覧会は12月8日までやっています。開催期間は残りわずかですが、まだ見学されていない皆さんはぜひ週末にでも訪問してみてください。

2020年4月23日（木）

自宅で研究「タブレットで建築VR」

建築学分野 間瀬 実郎、建築学科5年 市川 新之助

呉高専では、いくつもの遠隔授業が始まっていますが、卒業研究も遠隔でやっています。建築学科5年の市川新之助は、愛媛県の自宅でタブレット端末を使ったVRの研究を進めています。特徴は、位置を検知しながら、映像を表示させることで、タブレットをもって歩き回ると、画像もある程度それに同調して表示されることです。内蔵の加速度センサーとカメラを使用して実現させています。今年の夏に完成予定の新図書館棟を表示させた、詳細な実験も進んでいます。外観はもちろん、室内も正確に表示することができます。

一般的なVRのヘッドマウントディスプレイと違い、同時に複数の人が体験し、評価できるところも便利です。ただし、自宅の部屋が狭いので、歩き回る実験には苦労しているそうです。このシステムが完成すれば、建築設計製図などの授業にも応用したいです。



専攻科



修了おめでとうございます

専攻科長補 木村 善一郎

令和二年度修了生の皆さんご修了おめでとうございます。

皆さんは15歳から呉高専に入学し、7年もの期間この学校に在籍し日々研鑽を積み、そして本日素晴らしい門出の日を迎えました。教職員一同心よりお祝い申し上げます。また保護者の皆様におかれましても心よりお喜び申し上げます。

振り返ってみますと、やはり遠い過去より最近のことが想起されます。全世界で猖獗を極めるCOVID-19禍は未だ終息の兆しが見えず、今年度は多くの授業が遠隔での実施となりました。教員・学生ともに手探りの中、お互い決して準備万端という状況ではなく始まった授業形態であり、慣れ親しんだ対面形式よりもきっと負担も大きかったことだろうと思います。大変な一年間でしたが、しかしこうして皆さんが修了を迎えることができ、教員としてただ嬉しく思っています。

さて、現在人類活動は大きく停滞しています。この状況下で皆さんは本校専攻科を修了し新たな前途へと旅立つわけで、皆さんも心細いかもしれませんし、私も心配でないと言ったら嘘になります。しかしながらどのような状況に置かれても本校で学んだ「工学」という問題発見と問題解決の方法論（i.e. プロジェクトデザイン）は皆さんの背骨として必ず機能してくれることでしょう。工学は現在のありとあらゆる人類活動における基盤です。例えば現在のCOVID-19禍を終息しうおそらく最大のターニングポイントは、ほかでもないmRNAワクチン開発の成功にあるでしょう。mRNAという短鎖長の核酸を体内に接種することで、液性免疫・細胞性免疫ともに賦活化させるこのワクチンは、従前の生ワクチンに匹敵する効果と、不活化ワクチンに匹敵する安全性を有し、さらに圧倒的に「早く」開発することができます。このワクチンの開発には細胞工学・遺伝子工学という医学生物学に近接する工学領域が、さらに大量生産にはプロセス工学が不可欠です。工学が新興感染症によるパンデミックの克服に極めて重大な貢献をしているわけです。

皆さんはこれから技術者として、あるいは幾人かは研究者として工学にかかわることになるでしょう。工学の目的は人類の幸福の総和を増大することにこそあります。人類がより善く生きることを目指す工学人の同志として、目的を同じくして皆さんとともに働くことができることを心より嬉しく思います。どうやら人生は長い。やっていきましょう。

2年間を振り返って-呉高专日誌より-

2019年4月7日（日）

専攻科新入生の集中講義を開催しました

専攻科長 中迫 正一、専攻科長補 小倉 亜紗美

専攻科1年生を対象とした「社会人基礎能力向上研修」の集中講義が開催されましたので紹介します。

4月6日（土）午前は、呉信用金庫の 大崎 武志 氏と伊藤 慶子氏 による「ビジネスマナー研修」、6日（土）午後・7日（日）午前は、ジョーンズ ラング ラサー株式会社 の 溝上 裕二 氏 による「ロジカルシンキングとコミュニケーションスキルに関するワークショップ」の研修を実施しました。2日間の研修を通して、社会人として求められている能力や自分に足りない部分を再認識する良い機会であったと感じています。

専攻科1年生は、5月7日（火）より7月19日（金）までの約3ヶ月間、民間企業、官公庁、大学等にて長期インターンシップに取り組みます。

7月末には、ひとまわり成長した姿が見られることを期待しています。



2019年8月9日（金）

専攻科 インターンシップ報告会

専攻科長 中迫 正一



8月9日（金）、視聴覚教室および大講義室において「インターンシップ報告会」が開催されました。専攻科では、企業や研究機関等で実際の課題に取り組むことにより、社会で必要な知識を確認することを目的として、長期インターンシップを実施しています。

本年度も専攻科1年生35名が、5月7日（火）～7月19日（金）の約2ヶ月半、民間企業、官公庁、大学等においてインターンシップを実施し、その成果について報告しました。

報告会には、学生を受け入れていただいた企業からも多くの皆様が来校され、充実した報告会になったと思います。この経験を今後の学生生活や進路選択に活かしてもらいたいと感じています。

終わりに、長期インターンシップをお引き受けいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

2020年10月3日（土）

日本設計工学会研究発表会で専攻科学生6件発表

専攻科2年 峯岡 誠太郎

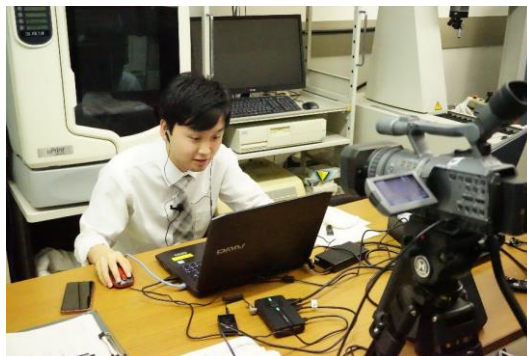
2020年10月2、3日に開催された、日本設計工学秋季大会研究発表講演会は、新型コロナウイルスの影響でweb開催となりました。

専攻科2年生（機械系）の学生6名がそれぞれの研究テーマについて発表いたしましたので、紹介いたします。

発表講演は材料強度系3件、計測系1件、流体系1件、設計系1件の6件についての発表を行いました。

全国大会ということでレベルの高い講演、質疑応答が行われ、非常に良い経験ができました。

この経験を糧に卒業までのあと半年、研究活動に熱心に取り組んでいきたいと思っています。



進路速報 (2021年1月末現在)

■本科卒業生 就職予定先一覧

就 職 先	学 科 名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科
呉工業高等専門学校				○	
呉市消防局				○	
呉市役所				○	
広島市役所				○	○
国土交通省中国地方整備局				○	
JFEプラントエンジニア(株)			○		
J-POWERジェネレーションサービス(株)			○		
NHK					○
NTTコム エンジニアリング(株)			○		
旭化成(株)			○	○	
アズビル(株)					○
大阪シーリング印刷(株)	○				
大阪ガス(株)				○	○
オートリブ(株)	○				
大之本建設(株)					○
花王(株)	○				
鹿島クレス(株)					○
(株)NIPPO				○	
(株)NTTファシリティーズ関西					○
(株)アスパーク			○		
(株)大林組					○
(株)カネカ	○				
(株)熊谷組				○	
(株)ジェイアール西日本ビルト					○
(株)シマノ			○		
(株)神鋼環境ソリューション	○				
(株)竹中工務店					○
(株)ディスコ	○				
(株)日立ビルシステム			○		
(株)フジタ					○
(株)ポケットマルシェ			○		
(株)メイテック			○		
(株)メンバーズ			○		
(株)レールテック				○	
川崎重工業(株)	○				
キャノン(株)	○				
キャノンメディカルシステムズ(株)			○		
共同エンジニアリング(株)					○
極東興和(株)				○	
コスモ石油(株)	○				
五洋建設(株)				○	
清水建設(株)					○
大成建設(株)				○	
中国電力(株)				○	
中国電力ネットワーク(株)			○		
中電技術コンサルタント(株)				○	
中部電力パワーグリッド(株)					○
電源開発(株)				○	
東亜建設工業(株)				○	
東海旅客鉄道(株)			○	○	
東京電力ホールディングス(株)			○	○	
西日本旅客鉄道(株)	○			○	○
西日本高速道路(株)				○	○
西日本高速道路エンジニアリング中国(株)				○	
西日本高速道路ファシリティーズ(株)					○
日鉄テックスエンジニア(株)					○
パナソニック(株)アプライアンス社	○				
パナソニック(株)コネクティッドソリューションズ社	○				
日立造船(株)	○				
富士ゼロックス東京(株)	○				
復建調査設計(株)				○	
本田技研工業(株)	○				
マツダ(株)	○				
三菱重工業(株)	○				
三菱重工冷熱(株)	○				
三菱電機ビルテクノサービス(株)			○		

■本科卒業生 進学予定先一覧

進 学 先	学 科 名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科
呉工業高等専門学校 専攻科		○	○	○	○
呉工業高等専門学校 研究生					○
岡山大学		○	○		
九州大学		○		○	○
九州工業大学			○	○	
京都工芸繊維大学					○
熊本大学				○	
筑波大学			○		
電気通信大学			○		
東京経済大学					○
東京農工大学			○		
東京大学			○		
豊橋技術科学大学					○
長岡技術科学大学	○			○	
日本工学院八王子専門学校			○		
広島大学	○	○	○		○
武蔵野美術大学					○
横浜国立大学					○

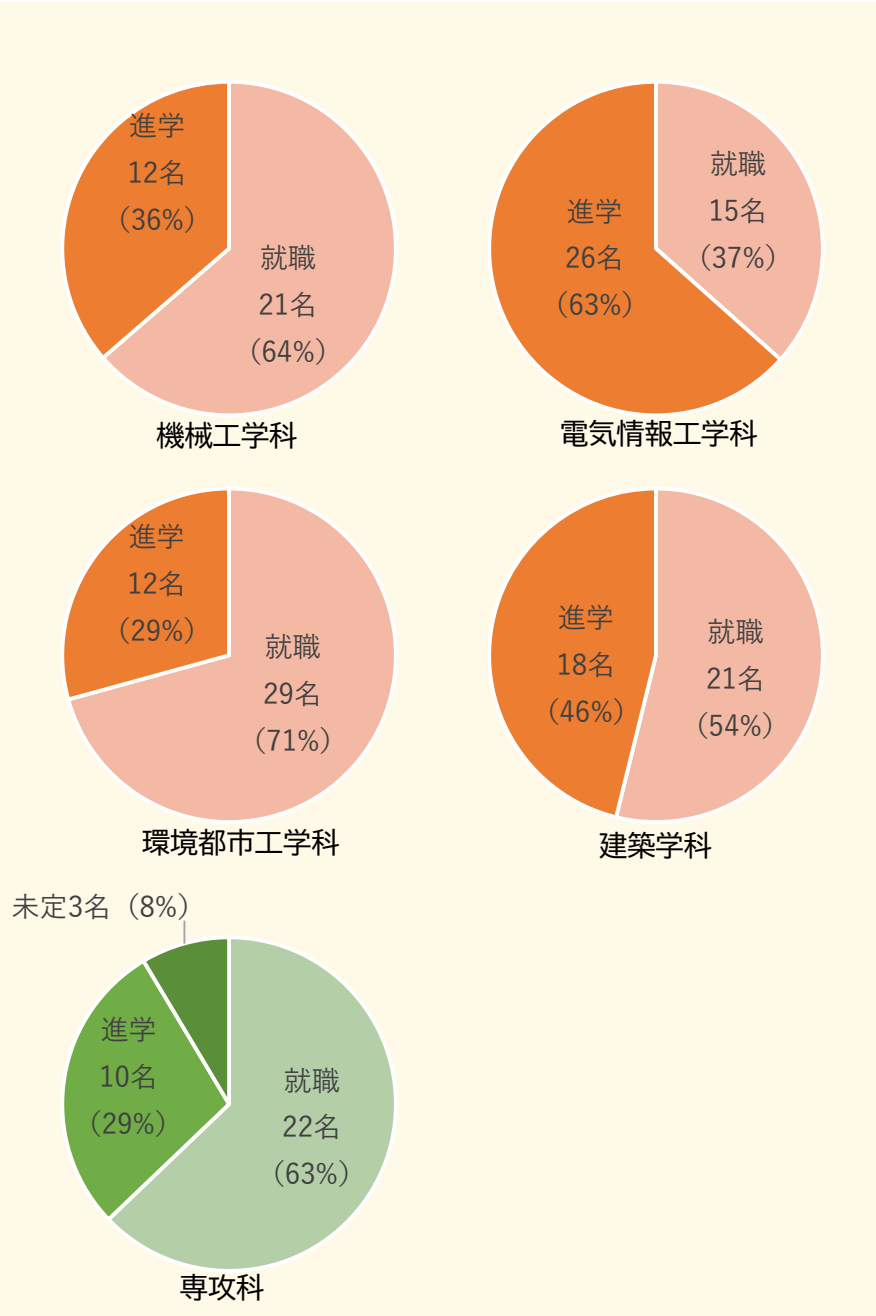
■専攻科修了生 就職予定先一覧

就 職 先
愛媛大学
呉市役所
広島県庁
三原市役所
国土交通省中国地方整備局
KDDIエンジニアリング(株)
アルモ設計(株)
(株)HIVEC
(株)NIPPO
(株)いであ
(株)北川鉄工所
(株)ショーワ
(株)ヒロテック
(株)ミツトヨ
三機工業(株)
ショーボンド建設(株)
ダイキンエアテクノ(株)
ダイコーテクノ(株)
大和ハウス工業(株)
東京電力ホールディングス(株)

■専攻科修了生 進学予定先一覧

学 校 名
筑波大学大学院
東北大学大学院
長岡技術科学大学大学院
広島大学大学院
北海道大学大学院

■就職・進学状況(令和2年度)



-2020年度の呉高専日誌から（教育・研究）-

2020年6月15日（月）

呉高専の充実したオンライン演習

電気情報工学科

実験・実習用のソフトウェアが、学校のパソコンでしか使えないケースも多いと思います。呉高専の場合、データサイエンスを得意とするソフトウェア「MATLAB」が自宅でも使えます。

以前にもご紹介しておりますが、この恵まれた環境は、全国の高専の中でも数校のみ。このソフトを使ったオンライン授業の様子をお伝えします。

専攻科2年生が「バイオメトリクス」の課題を自宅で行っている様子です。

写真（左）は、登録した人物以外を検出するためのディープネットワークの学習をさせている様子、写真（右）はネットワークを組み替えている様子です。

恵まれた環境を活用してチカラをつけて貰えたらと思います。



2020年9月14日（月）

呉工業高等専門学校協働研究センターと広島県警察本部交通部との交通対策に関する協定締結について

総務課長補佐（総務担当）



令和2年9月14日（月）呉工業高等専門学校協働研究センターと広島県警察本部交通部は交通対策に関する連携協定について締結式を実施しました。

協働研究センターと広島県警察本部交通部は兼ねてより産学官連携及び地域活動を通じて相互協力に関係にあり、特に、2018年の西日本豪雨災害時には、互いに連携し災害からのいち早い復興に尽力しました。

広島県警察本部交通部と連携協定を締結することにより、学術的、実践的な知見・ノウハウが交通渋滞や交通安全対策をはじめとする諸問題の解決につながり、県民、企業、自治体など地域の発展と安全安心な環境づくりに貢献できると期待が高まります。

また、協定締結後は、交通管制センターを見学、参加した学生は熱心に説明に聞き入っていました。

※協定式ではマスクを外しておりますが、感染症予防対策を講じて開催しております。

2020年11月17日（火）

中国労災病院との連携協力に関する協定調印式について

総務課総務係

令和2年11月17日（火）本校の第2会議室にて、独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院と連携協力に関する協定の調印式を開催しました。

呉高専から程近い場所にある実際の医療現場が抱えるニーズを提供いただき、それに対して本校が持つ工業技術を役立てる医工連携を進め、社会貢献に繋げることを目的として協定締結の運びとなりました。調印式には、呉工業高等専門学校からは篠崎校長、黒木副校長、梅田事務部長が、中国労災病院からは栗栖院長ほか2名らが出席し、協定書に署名し調印式を執り行いました。

今後は、臨床データや研究内容などの情報共有を進めて、福祉機器の開発や通信技術の活用といった研究候補を模索し、より高い成果を挙げられるよう連携・協力を推進する予定です。

※協定式ではマスクを外しておりますが、感染症予防対策を講じて開催しております。



-2020年度の呉高専日誌から（インキュベーションワーク）-

2020年9月10日（木）

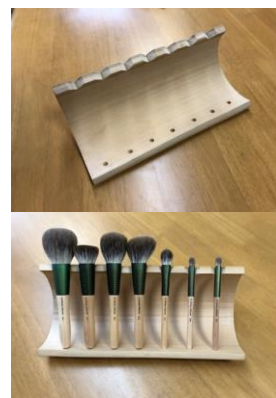
意匠登録した熊野筆の什器を実際に製作しました！

機械工学分野 吉川 祐樹

「呉・広島企業と連携した商品開発プロジェクト」のチームは、熊野筆の竹宝堂と連携しながら商品開発に取り組んできました。その成果として熊野筆をディスプレイするための什器を製作し、2020年1月に竹宝堂と呉高専の共同出願で意匠登録されました。そして今回、竹宝堂の竹森様から什器の製作依頼をして頂き、合計3つの什器を製作しました。依頼を受けた5月頃はきれいに乾燥した竹がなく材料選びが大変でした。

またコロナ禍でメンバーが集まることも難しく苦労しましたが、夏休みを利用して完成させることができました。今回はリーダーの田淵さんの都合が付かなかったため、元チームメンバーの住吉くんが竹宝堂へ渡しに行ってくれました！

自分達が意匠の権利をもっているデザインを実際に製作する楽しさや、それが使われる喜びを体験できました！！



2020年11月26日（日）

プチドローン競技会

電気情報工学分野 平野 旭

私達のグループでは、画像処理技術と基本的なプログラミングについて勉強しながら、知的なドローン制御に関する探求をしています。

グループ内で複数のチームに分かれ、定期的にタスク（課題）を決めて競技会を行うことにしています。今日は、第一回競技会として、「目標物の中央を検出したら、派手にアピールをして着陸せよ」という課題で競技会を行いました。

急遽、予告していたよりも難易度の高い目標物に変更しました。

それでも学生たちは、上手に最終調整をしていました。

色々な技術を知りつつ、自身の工夫を入れて沢山の失敗もしつつ、より高度な課題をクリアできるように探求していきたいと思います。



2020年12月6日（日）

全国高専デザコン優秀賞獲得 構造デザイン部門で総合2位 5年連続の受賞

建築学科5年 栄井 志月



12月5日～6日に宮城県名取市で「第17回全国高等専門学校デザインコンペティション」が開催されました。私たちのチームが出場する構造デザイン部門では、橋梁模型を製作し、その強さ・軽さ・デザイン性の高さで競う競技です。使用可能な材料は昨年度の東京大会に引き続き"紙"でした。

作品名は『夢双』です。重量は259.2gで、目標の50kgの荷重に耐えきり、審査員評価点も1位タイの点数を頂き、総合2位で優秀賞を獲得しました。これで第13回大会以降、5年連続の受賞となり、今年も呉高専の実力を存分に発揮することができました。コロナ禍でありながら、多くの先生方のご尽力でここまでの作品が仕上げられました。本当にありがとうございました。

来年度の大会は呉で開催されます。チーム一丸で本拠地での最優秀賞受賞を目指します。私もデザコンOBとして呉高専を全力で応援します。頑張ってください！

-2020年度の呉高専日誌から（クラブ活動）-

2020年8月8日（土）

広町民ジュニアソフトテニス大会 高校男子の部 優勝！

ソフトテニス部顧問 井上 浩孝

8月8日（土）9時より呉高専テニスコートにて、広町民ジュニアソフトテニス大会が開催されました。

本校から、高校男子の部に1・2年生の男子5ペアが出場し、夏空の炎天下のもと、広高校のペアとの手に汗にぎる熱戦をゲームカウント4-2で制し、松岡 航右（環境都市工学科2年）・加藤 悠雅（建築学科2年）ペアが優勝しました。

この大会は、広地区の中学生、高校生の技術向上を目的とする大会です。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で7月中旬から4カ月ぶりに練習を本格的に再開し、1・2年生の新チームとなって初の大会での優勝、感無量です。

大会開催へご尽力された広体育協会関係者各位に深く感謝いたします。



2020年10月25日（日）

演劇部 第68回呉地区高等学校総合演劇大会で最優秀賞 受賞

演劇部 力石 享香（機械工学科3年）



私たち演劇部は、10月25日に市立呉高校多目的ホールで行われた第68回呉地区高等学校総合演劇大会に出場し、オノマリコ（趣向）作「わたしのお父さん」を上演しました。役者はもちろん照明や音響、装置にも工夫を凝らし、この脚本独特の世界観をしっかりと伝えられるようにと取り組んだ作品です。審査の結果、呉高専演劇部は最優秀賞をいただき、県大会への切符を手に入れました。

第60回広島県高等学校総合演劇大会は11月14日～15日に広島市の東区民文化センターで行われます。このコロナ禍の下、大会に参加できるということに感謝しながら、さらに良い舞台にできるようしっかりと作りこんで挑みます。

※上演中の演者は、広島県高等学校演劇協議会のコロナ禍の対策ルールに則って、安全に配慮した上でマスクを外して演技をしています。

2020年11月1日（日）

高専ロボコン2020 4年連続全国大会出場決定！！

ロボット制作部 森 和哉（電気情報工学科4年）

ロボット制作部は11月1日に高専ロボコン2020中国地区大会に参加しました。今年は新型コロナウイルスの影響でオンラインでの開催となりました。

今年のテーマは「はぴ☆ロボ自慢」というもので、簡単にいうと今の世の中をハッピーにするロボットを作って自慢しようというものです。呉高専よりAチーム「土竜（どりゅう）」、Bチーム「技ミック混ジック（ぎみっくまじっく）」の2チームが出場しました。

結果は、Aチームが特別賞「セメダイン賞」を受賞し、Bチームが審査員推薦チームとして全国大会出場が決まりました。両チームとも活動環境が制限される中でしたが、しっかりと成績を残してくれました。これからはロボット制作部が丸となって全国大会最優秀賞を目指して頑張っていきます。

引き続き応援よろしくお願いします。



-2020年度の呉高専日誌から（グローバル）-

2020年8月26日（水）

サマーイングリッシュキャンプ

国際交流室 國安 美子

8月24日から26日までの3日間、第2回イングリッシュキャンプが開催され、14名の学生が参加しました。今回はコロナ禍で合宿しての開催は断念し、オンラインで実施しました。プログラムは3～4名が1グループになり、各グループには東京大学や横浜国立大学などの外国人大学生・大学院生がリーダーとして加わってディスカッションをリードしてくださり、最初は緊張した様子でしたが、思い思いの英語漬けの3日間を過ごしました。

また、ディスカッションのテーマの中には「COVID-19とどう共生していくか」について議論するなど、最近の話題についても自分の意見を英語で表現し、最後には1人1人によるプレゼンテーションを行えるようになるなど、英語のスキルをアップさせることができました。

最後に、今回の開催にあたり、ご協力をいただきました株式会社ISAの担当者様に心よりお礼申し上げます。



2020年10月1日（木）

第1回 World Journey（留学報告会）

国際交流同好会 新越 典子（建築学科3年）



10月1日(木)に、co-baにて国際交流同好会主催の留学報告イベント「World Journey」を開催しました。

エージェント・渡航国・目的・期間・時間などが異なる多様な学生たちが自身の留学経験について発表するイベントで、留学が気になる学生などが集まり、話を聞いたり質問したりしていました。

手指消毒やマスク着用のコロナウイルス感染予防対策を徹底しながら、留学した学生が持ち帰ったフィリピンやカナダのお菓子を試食したり、写真を見たりして、充実したイベントとなりました！

このイベントをきっかけに、海外に興味を持ったり実際に留学する学生数が増えれば、幸いです。

このイベントは第2回も開催予定なので皆さん是非来てみてください。

2020年10月7日（水）

International round-table talk vol.1を開催しました

人文社会系分野 小倉 亜紗美

2020年10月7日にInternational round-table talk vol.1を開催しました。International round-table talkは2020年10月から始めたグローバルに活躍する方々の話を聞くround-table talk（座談会）です。

10月から毎月1回開催予定で、1回目は和歌山高専機械工学科の卒業生で花王株式会社の中津和郁氏に、約2年間のインドネシアでの勤務の経験などをお話頂きました。海外で他の国と一緒に仕事を進めるときにどんなことに気を付けていたのかなど、将来の参考になるお話をたくさんして頂きました。

コロナ禍ということもあり、オンライン講演会となりましたが、当日の動画を録画し当日参加できなかった人も見れるようにしてあります。

対面授業が開始されましたが、オンラインの良いところは今後も活用していきたいと思います。



-2020年度の呉高専日誌から（イベント等）-

2020年9月6日（日）

第1回学校見学会

教務主事補 深澤 謙次

9月5日（土）・6日（日）に第1回学校見学会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、初めての試みとして、人数を制限して行うことになりました。

まず全体説明として、校長から呉高専の紹介があり、その後、キャンパスツアーで校内を巡回して、各学科の教育・研究内容などを見学して頂きました。今年は学生ではなく教員が各学科の説明やインキュベーションワークの活動紹介などを行い、見学者に呉高専の特徴や良いところを知っていただけたと思います。学校生活や入試に関する相談コーナーでは、特別推薦に該当するかなど個別の相談を受けました。また、例年実施している「女子中学生なんでも相談会」は、今年初めてオンライン上で開催しました。高専は技術者を目指すにはとても良い学校です。ぜひ本校を受検して頂ければと思います。



2020年11月1日（日）

第56回呉高専祭

建築学科3年 藏本 さくら



第56回呉高専祭が10月31日、11月1日に開催されました。今年は新型コロナウイルスの影響により保護者限定の完全予約制による人数制限などコロナ感染予防対策を取り入れての開催となりました。学生が中心となって作り上げる高専祭は、各クラスの模擬店やステージ企画、部活やインキュベーションワークの展示など呉高専生たちの様々な面を見ることができます。

夜にはDANCE PARTYが開催され、学生のダンスやゲスト出演でも大変盛り上がりしました。最後は恒例の打ち上げ花火で高専祭を締めくくりました。「笑ったもん勝ちあっぷっぷ！」という今年のテーマどおり、皆の笑顔が溢れていた高専祭。笑顔を忘れず、この状況を乗り越えようという想いが皆の中でひとつになった最高の行事となりました。足を運んでいただいた皆様ありがとうございました。そして、実行委員長を始めとする高専祭実行委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。

2020年9月28日（月）

卒業生がアート作品を寄贈してくれました

広報室長 間瀬 実郎

新しい図書館は白い壁が多く、アート作品の展示空間にも活用できます。このことを知った本校建築学科の卒業生 伊藤健太さんが、さっそく現代アートを寄贈してくれました。

作品名は「2020/9」で、図案はじっくり見ると何を表しているかわかるとおもいます。

たまたま制作したばかりの作品だったようですが、この図書館棟のオープンにぴったりの作品です。

さっそく、キャプションをつけて入口付近に展示させてもらいました。

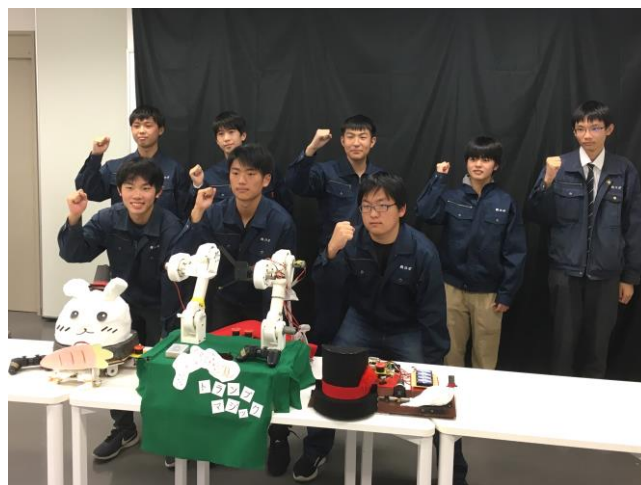
楽しい雰囲気になりました。

多くの人の目に触れることを願っています。

図書館は10月上旬に再開される予定です。



-部活動の成果・受賞実績-



●アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020 中国地区大会

日程・会場： 11月1日（日） オンライン開催

結果：【Aチーム】「土竜」：特別賞（セメダイン株式会社）

【Bチーム】「技ミック混ジック」：全国大会出場（審査員推薦）



●全国高専デザインコンペティション2020 in 名取

日程・会場： 12月5日（土）～6日（日）

オンライン開催等

主管：仙台工業高等専門学校 名取キャンパス

結果：【構造デザイン部門】夢双 優秀賞



●第11回男子西日本女子全日本高専バスケットボール大会

日程・会場： 12月26日（日）～28日（月） グリーンアリーナ神戸等

主管：神戸市立工業高等専門学校

結果：男子4位 女子4位

●中国地区高専体育大会夏季代替大会

日程・会場： 11月15日（日） 呉高等専

主管：呉工業高等専門学校等

結果：硬式野球 優勝（全国高専体育代替大会出場）

「学びを見せる図書館棟」 竣工

令和2年9月2日、図書館棟竣工記念式典を挙行了しました。

本改修工事では、これまで2階にあった図書館（開架、閲覧室、事務室）を1階に移動、閲覧室は全面ガラス張りにし、図書館を利用する学生の姿をキャンパス内に積極的に見せることで、図書館の利用者増加を狙っています。

棟内には学生課、コワーキングスペース、ラーニングcommons等があり、「ついでに利用」による図書館の利用者増加も期待しています。ガラスはLow-Eガラスを採用し十分な冷暖房効率を実現しています。

図書館入口は内部と外部の2ヶ所に設置し、ついで利用や地域に開放された図書館としての機能を持たせてあります。

記念式典では、篠崎賢二校長が「呉高専の新たな知の拠点として大勢の学生、教職員に活用していただきたい」と挨拶を述べ、来賓の森野数博前校長らも祝辞を述べられました。その後、関係者によるテープカットを行い、改修工事の竣工をお祝いました。（図書館棟改修主査：間瀬実郎）



呉高専だより 80号 2021年3月

編集・発行 呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL: 0823-73-8200

Mail: kouhou@kure-nct.ac.jp